

**製品名: TCF-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18728**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	42kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TCF7
別名	TCF7; TCF1; Transcription factor 7; TCF-7; T-cell-specific transcription factor 1; T-cell factor 1; TCF-1
遺伝子 ID	6932.0
SwissProt ID	P36402
免疫原	抗血清はヒト TCF7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

**背景**

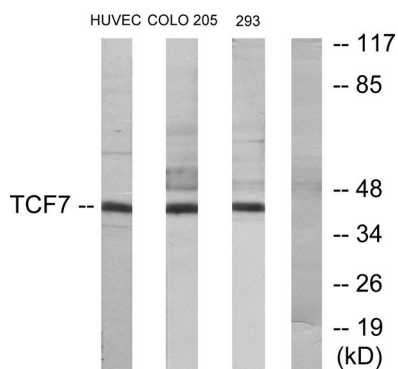
代替産物: L および S の 2 種類のアイソフォームは、代替プロモーターの使用によって生成されます。追加のアイソフォームが存在す

るようです。機能: T細胞リンパ球分化に関与する転写活性化因子。CD4(+) CD8(+)未熟胸腺細胞の生存に必要です。N末端CTNNB1結合ドメインを欠損するアイソフォームはこの役割を果たすことができません。CD3E遺伝子のプロモーターに存在するTリンパ球特異的エンハンサーエレメント(5'-WWCAAAG-3')に結合します。CTNNB1およびTCF7L2標的遺伝子のフィードバック転写抑制因子としても作用する可能性があります。TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4は、TCF7およびCTNNB1を介したトランス活性化を抑制します。誘導: TCF7L2およびCTNNB1による。配列注意: フレームの選択が間違っています。類似性: TCF/LEFファミリーに属します。類似性: 1つのHMGボックスDNA結合ドメインを含みます。サブユニット: CTNNB1のアルマジロリピートに結合し、安定した複合体を形成します。AES、TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4と相互作用します。組織特異性: 主にT細胞に存在します。増殖中の腸管上皮細胞および乳腺上皮の基底上皮細胞にも検出されます。代替産物: 代替プロモーターの使用により、LおよびSの2シリーズのアイソフォームが生成されます。追加のアイソフォームが存在すると思われる。機能: T細胞リンパ球分化に関与する転写活性化因子。CD4(+) CD8(+)未熟胸腺細胞の生存に必要。N末端CTNNB1結合ドメインを欠損するアイソフォームはこの役割を果たすことができない。CD3E遺伝子のプロモーター領域に存在するTリンパ球特異的エンハンサーエレメント(5'-WWCAAAG-3')に結合し、CTNNB1およびTCF7L2標的遺伝子のフィードバック転写抑制因子としても作用する可能性がある。TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4は、TCF7およびCTNNB1を介した転写活性化を抑制する。誘導: TCF7L2およびCTNNB1による。配列注意: フレームの選択が間違っている。類似性: TCF/LEFファミリーに属する。類似性: HMGボックスDNA結合ドメインを1つ含む。サブユニット: CTNNB1のアルマジロリピートに結合し、安定な複合体を形成する。AES、TLE1、TLE2、TLE3、およびTLE4と相互作用する。組織特異性: 主にT細胞に発現する。増殖中の腸管上皮細胞および乳腺上皮の基底上皮細胞にも検出される。

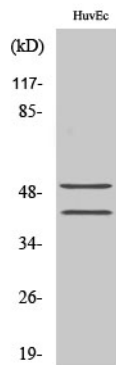
## 研究分野

幹細胞経路; WNT; WNT-T細胞;  $\beta$ -カテニン; タンパク質アセチル化

## 画像データ



TCF7抗体を用いたHUVEC、COLO205、および293細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した TCF-1 ポリクローナル抗体を用いた各種細胞のウエスタンブロット解析。